

# 高村光雲とその時代展

平成14年7月16日[火]—8月25日[日]

■休館日=毎週月曜日

■開館時間=10:00～18:00／金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

■入館料=一般800(640)円／大学・高校生560(450)円／中・小学生240(200)円

※カッコ内は前売・団体30名以上の料金／前売券はJR東日本びゅうプラザ・みどりの窓口(8月25日まで)  
千葉市美術館ミュージアムショップ(7月14日まで)で発売

■主催=千葉市美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会

■協賛=花王株式会社



千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

tel. 221-2311(代)

<http://www.city.chiba.jp/art/>



高村光雲《老猿》  
(1893 重要文化財)  
東京国立博物館蔵一部分  
撮影:高村規



上野公園に立つ《西郷隆盛銅像》(1898)と、皇居お濠端の《楠公銅像》(1900)で知られる彫刻家・高村光雲(1852-1934)。しかし、彼が製作に専念した木彫はあまりにも有名なこの二体の銅像にくらべ、くわしくは知られていません。

光雲は幕末の江戸・下谷に生まれ、1863年から11年間、仏師である高村東雲のもとで修業し、木彫を学びます。幕末から明治初期にかけて彫刻の世界では輸出向けの象牙彫刻が流行する一方で、伝統的な木彫は衰退の危機にありました。光雲はこのような中で古来からの技術を守り、そこに西洋の写実的な彫刻表現を加味することで新しい時代の木彫を生みだそうと努力したのです。その結果、彼は明治から昭和のはじめにかけて、わが国の彫刻界を代表する存在となりました。そして、門下からは山崎朝雲、米原雲海、平櫛田中など多くのすぐれた木彫家たちを輩出し、彼の長男・光太郎は彫刻家としてのみならず、文学・思想に大きな影響を与えた詩人でもあります。彼らの活動を考えるうえでも、光雲の存在は欠かすことができません。

今回の展覧会は、江戸仏師最後の巨人とも言べき高村光雲の《老猿》(1893 重要文化財)をはじめとする彼の木彫の代表作約80点と門人・関連作家の作品約40点によって、光雲が近代日本の彫刻に果たした役割について検証しようとする、初の本格的な展覧会です。(会期中、一部展示替がございます)

#### ■講演会「光雲と《老猿》」

講師：岩佐光晴氏

(東京国立博物館学芸部彫刻室長)

日時：8月3日(土) 午後2時より

会場：千葉市美術館講堂(11階)

\* 入場無料、先着順に受付

#### ■同時開催

千葉市美術館新収蔵作品展

7月20日(土)～9月8日(日)

#### ■次回の企画展示

鈴木春信 展

9月14日(土)～10月20日(日)



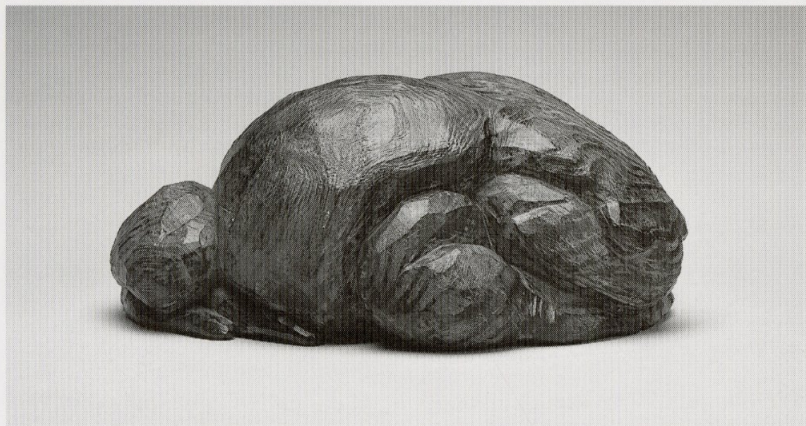
高村光雲《鞠に遊ぶ狢》(1902) 個人蔵(撮影:高村規)



高村光雲《鳩》(1926) 個人蔵(撮影:高村規)



米原雲海《竹取翁》(1921) 島根県立美術館蔵

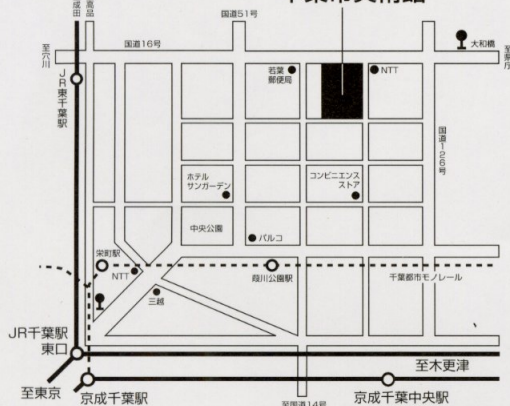


佐藤朝山《冬眠》(1928) 個人蔵



高村光雲《洋犬の首》(1877) 個人蔵(撮影:高村規)

#### 千葉市美術館



#### ■交通案内

- JR総武本線千葉駅東口より徒歩約15分
- 京成バス(乗り場⑦)3番目「大和橋」下車徒歩2分
- 千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩5分
- 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- 駐車場あり(平日は中央区役所と共用のため、混雑することがあります)

## 千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

tel.043-221-2311(代)

<http://www.city.chiba.jp/art/>